

そだちサポートプロジェクト

令和6年度 第3回 そだサポ研修&交流会

令和6年12月20日（金） 18:30 ~ 20:20

○ 参加事業所：

奄美市（2）

にこびあ、のぞみ園、

瀬戸内町（1）

みらいはうす

龍郷町（2）

愛かな、聖隷かがやき

喜界町（1）

てくてく教室

与論町（1）

ほのぼの

鹿児島（6）

ALOHA、おひさま、スクラム、てるくにバオバブ、にじいろ、のびのびパレット



オブザーバー（4）

住田氏（国分西小）、天目石氏（大島教育事務所）、林氏（大島特別支援学校 徳之島支援教室）、朝沼氏（スクールカウンセラー）

講師/事務局

今村氏、高橋氏（鹿児島大）、福崎（ぴあリンク奄美）

合計 46名

1.各事業所自己紹介

2.ミニ研修（別紙資料）

「保育所等訪問支援ガイドラインのポイント ～他機関と連携していくために～」


「子どもの生活の場に介入して支援すること ～見立てや介入のコツ～」

| | | |
|--|--|--|
| <p>鹿児島大学大学院 臨床心理研究科</p> <p>准教授 高橋 佳代 氏 准教授 今村 智佳子 氏</p> | <p>保育所等訪問支援の目標</p> <p>障害のある子どもの育ちと個別のニーズを把握した上で、地域社会への参加（包摂、インクルージョン）を推進していくこと</p> <p>① 子どもの集団生活への適応と子どもの育ちの充実： 集団の中で安全に過ごせることを支え、子どもの自尊心や主体性を育てつつ、子どもの育ちの充実を図ること</p> <p>② 成長を遂げようとする子どもと家族への支援を通じた子どもの暮らしや育ちの充実 子どもの発達を心配する不安や保育所等に適応してほしいという家族の心情を理解し、きょうだいを含めた家族のトータルな支援を通じて子どもの暮らしを支えること</p> | |
| | <p>子どもの生活の場に介入して 支援すること</p> <p>～見立てや介入のコツ～</p> | |

3.交流会（意見交換及び質疑応答）

【1G】

- にこびあ
- てくてく
- スクラム
- 朝沼氏（県SC）
- 住田氏（国分西小）




○保育所等訪問支援について

- ・学校側としては、保育所等訪問の頻度が減ってくると、支援がいい方向に進んでいるんだなという安心感に繋がっている。
- ・ベテランの先生が受け入れ時に抵抗を示しやすいように感じる。
- ・支援に入る側も受け入れる側も一緒に子どもの行動や特性に目を向ける事の大切さを広げていきたい。
- ・事業所として受け入れ先の担当から受け入れ先の様子を聞くことをしている。保育所等訪問支援に限らず、並行通園などでもしっかり連携していくことは大切。

【2G】

- 聖隷かがやき
- みらいはうす
- ほのぼの
- ALOHA
- にじいろ
- 林氏（大島特支徳之島）



○保育所等訪問支援について

- ・小学校に支援に入ったことがあるが、学校が制度を理解しておらず、受け入れが良くなかったということがあった。
- ・受け入れ先と一緒に、保護者の悩みに寄り添ったり、その子に合った支援を一緒に考えるなど、あくまでも一緒にやっていくというスタンスが大事。

○不登校児が放デイを利用した際の出席扱いについて

- ・地域によっては、不登校児が放デイを利用することで、出席扱いになっているところもあるが、そうじゃない地域もある。県内で統一していけたらいい。
- ・制度理解の差で、児童生徒が不利益になることがないように改善していくことが望ましい。

○子どもとの関係性をつくっていくために


- ・周りの先生に相談しながら、その対応や声掛けなど学んでいけたらよい。

○他機関との情報共有について（虐待疑いなどのケース）

- ・まずは職場内で意見を出し合い、一人で悩まずに考えていくことが大切。
- ・疑いの時点で通報したほうが良い。各専門機関が情報提供したことで関係性が悪くならないような配慮が必要。

【3G】

- のぞみ園
- 愛かな
- おひさま
- のびのびパレット
- 天目石氏（大島教育事務所）



○保育所等訪問支援について

- ・支援先については、それぞれ風土や文化の違いによる難しさもあるが、保護者の期待に応えたいという想いを持って、関係性づくりを行っていききたい。
- ・今年度の報酬改定の中で、支援先への報告書の提出について提出義務が出てきている。今後は評価にも繋がってくるので、これに関して情報交換も行っていく必要がある。

○情報交換の場について

- ・地域によっては、情報共有の場が限られているところが多い。奄美は、まとまりがあつてうらやましいと意見があった。
- ・一緒に意見交換するということで、それぞれが、子どもや保護者の思いに寄り添いながら頑張っているということがわかった。奄美の取り組みをもっと広げていけたらよい。

OSTなどの専門職を事業所に呼びたい場合の対応について

- ・療育等支援事業を活用することで、事業所も対象となっているため、対応できるのではないか。

4.まとめ（高橋氏/今村氏）

・入ったグループで司会の方が「保育所等訪問支援が進んでいく先が楽しみです」と発言され、本当にそうだなと思えた。10年後20年後、こういった取り組みにより、少しでも社会的に変わってくれば良いと思えた。